

| | |
|-------------|-------------|
| 群 教 セ | G15 - 01 |
| | 令 6 . 286 集 |
| | 高-キャリア |

令和 6 年度長期社会体験研修報告書

研修先：株式会社ミツバ

長期社会体験研修員 鳥居 紘子

I 研修内容

1 研修先の概要

株式会社ミツバ（以下、ミツバ）は群馬県桐生市に本社を置き、自動車やバイクに使われている様々なモーターを製造している自動車部品メーカーである。設立は1946年3月8日、国内に研究開発拠点が3か所、生産拠点が6か所、販売拠点が7か所ある。関連会社が国内外に45社あり、グローバルに開発生産体制を展開している。

ミツバでは、多様化するモビリティ市場において、「モーター・制御・機構」の技術で、お客様の「安全」「利便快適」「環境」のニーズに応える商品をグローバルに提供している。また、生産ラインの自社開発にこだわり、合理的で最適な生産方法を常に研究し、製品の競争力を最大限に高めている。

2 研修先での主な研修内容

(1) 新入社員研修【4月】（研修場所：ミツバ研修センター）

大卒新入社員向けの集合研修に参加し、ミツバの理念、業務に対する姿勢、そして改善活動への取組について深く学ぶ機会を得た。特に、6か月の生産実習を通じて実践的な改善活動に取り組むための知識習得に力点が置かれており、「改善」というキーワードが強く印象に残った。

(2) 新里工場での生産実習研修【6月1日～6月28日】（研修場所：新里工場製造5課）

新里工場製造5課で一か月間生産実習を行った。パワーウィンドウモーターの製造に携わった。生徒が就職後に行う業務の一端を担う体験をしたことから、工場内の職場環境や安全への徹底した配慮など、多くのことを知ることができ、貴重な経験となった。

(3) 企業の教育制度・採用活動研修【通年】（研修場所：人材開発課、ミツバ研修センター）

人材開発チームにおいて、階層別教育の運営補助、研修受講、採用業務（高卒採用活動の補助、内定者フォロー）に従事した。大卒新人研修における改善活動報告会の準備業務では、研修の準備・運営に携わることで、その大変さを身をもって実感した。また、高卒採用活動においては、会社説明会や入社試験の準備・運営を補助し、企業の採用活動の全体像を把握することができた。企業がどのような人材を求めているのかを知るよい機会となった。

3 キャリア教育実践

(1) キャリア教育について

企業での研修や業務を通して、作業の効率や質をよくするために「改善」を意識した働き方が必要だということ学んだ。「今よりもよくする」という視点をもつこと、「改善」すべき課題に気付くことは、キャリアを築く上で大切だということが分かった。そこで、今回の授業実践では基礎的・汎用的能力のうち、課題対応能力を育みたいと考えた。本実践では、改善の第一歩である「気付き」に焦点を当て計画を行った。

(2) 実践の概要（県立大間々高等学校）

授業実践

題材名 「自らの課題に目を向け、よりよい進路選択を目指そう！」（特別活動）

対象 普通科第2学年3組 38名

課題に対してどのような原因があるのかを考え、それを言語化することで、課題と原因を明確にす

ることを目指した。そして、明確になった要因の解決策を考えることを通して、キャリア教育において育成すべき四つの能力の中の、課題対応能力を育みたいと考え、テーマを設定した。

授業では、研修先で学んだQC手法の「特性要因図」を用いて、課題要因の洗い出しと解決策を考察した。Step 1では、グループワークで特性要因図の作成法と手順を習得した。Step 2では「進路選択の課題」をテーマにグループで特性要因図を作成し、解決策を話し合い、情報共有を図った。Step 3ではStep 2で作成した特性要因図を参考にして生徒個人の特性要因図を作成し、解決策を考え、すぐに実行に移せそうな解決策をクラスで共有した。

II 研修成果

1 人材育成について

研修を通して、従業員の成長と意識の変化に、研修が大きく貢献していることを実感した。仕事をすすんでチームワークは不可欠であり、コミュニケーションスキルの重要性はますます高まっていると感じた。その中で相手の話を「聴く」ことの難しさを改めて認識した。また、アサーションスキルについても、多くの生徒が苦手意識をもっているのではないかと感じた。今後、研修で得た知識を生かし、学級活動やグループワークなどの機会を通じて、生徒の円滑なコミュニケーションのためのスキル向上に努めていきたい。

2 業務改善について

本研修におけるキーワードは「改善」であったと感じている。「今よりもよくする」ために、現状の課題に気づき、その要因を洗い出し、改善策を考え実行することで、業務の効率化を図ることが分かった。そのためにはチームで協力することが必要不可欠であり、学校でも教職員の多忙感や負担感改善のために、情報共有、協力ができる環境づくりを考えていきたい。

3 キャリア教育実践について

今回、研修で学んだQC手法の一つである「特性要因図」を授業で活用し、「進路選択の課題」というテーマで、課題の要因を洗い出し、解決策を検討する活動を行った。この授業を通して、生徒たちは「課題に気づき、考え、行動することで改善につながる」という一連のプロセスを知り、課題対応能力を育む第一歩を踏み出すきっかけになった。生徒は、クラスメイトと悩みや不安を共有したことで、安心感を得るとともに、共感や新たな問題点に気付くことができた。また進路選択という漠然とした課題が、様々な要因によって構成されていることを視覚的に捉えることができた。そして、問題の複雑性を理解し、自分の内面的な要因だけでなく、環境や社会的な要因も課題に影響を与えることを認識し、多角的な視点で問題を考えることの重要性を学ぶことができた。

今後は、日常生活においても、生徒たちが自ら課題に気づき、考え、行動することを意識し、よりよいキャリア形成ができるよう支援していきたい。

III まとめ

本研修を通して、企業の採用活動や教育制度について、経験を通して深く知ることができた。様々な研修を受講し、教育に力を入れることで、意識の改革や知識の深化につながるということを実感した。採用活動では自分になかった視点を養うことができ、これからのキャリア教育に生かしていきたいと思った。

また、業務の中で、授業で教えている表計算の関数や文書作成機能が非常に役立った。生徒たちには、これらのスキルが社会で生かされていることを実感し、実社会で求められるスキルを身に付けてほしいと思った。そのため、授業では、より実践的な課題を設定し、生徒たちが自ら考え、解決できるような授業内容を考え、実践していきたい。

(担当指導主事 高橋 邦明)